

「けやき俳句の会」会報(第百八十四回)

平成三十年十月三日

第百八十四回句会記録

★日時 十月三日

★場所 けやき学習室

(参加者二十五名)

★真樹先生投句

⑤ 滅びゆく言葉を愛す落し文

② 名月の雲間にかかりアラベスク

② 赤ちゃんの仕種は愛語秋桜

★真樹先生選句 (◎は特選)

◎⑤ 蟋蟀も居ると奥へと案内さる

◎④ 月傾く旅先の店地酒愛で

◎② 秋思なほ愛は何処とさまよへり

◎② 屏風の書我に問かけ長き夜

⑤ 吾亦紅嬾やかなれど芯強し

④ 身に入むやものに躓きやすくなる

④ 風立ちぬ信濃追分男郎花 (おとこえし)

③ 収穫終る梨棚抜けて空仰ぐ

② 落穂拾う数羽の鳥とくれなずむ

② 震災時のラッコ戻り来北の秋

② 葛の花震災復興七年目

② 三味の音の流る静かさ秋の雨

① カチャーシーを踊る新知事天高し

① 箱根路の愛染明王曼殊沙華

① 菊日和かかぐシャンパン晴れやかに

① 切り花の香に秋蝶の折りかな

★会員互選句

⑤ 菊の香や御堂は慈愛の笑みの中

④ 書店カフェゆるり流れる秋の午後

④ 曼殊沙華八十路の吾を総立ちで

④ 愛着を解きて断捨離秋日和

③ 朝の光露草の瑠璃鮮やかに

③ みずほの国不穩なれども稲実る

③ 赤とんぼ田毎に遊ぶ千枚田

③ 畦道をふみしむたんび秋の虫

③ 名月や驚発つ堀の城動く

② 晴れるかな晴ればいいなうるこ雲

② 残る蚊を叩き損ねし痛みかな

② 枝先にも鈴虫みちる棚田かな

② 厨の灯そつと消したるきりぎりす

② 深更のラジオ離せぬ野分かな

① 白桃の香りは昔の愛の夢

① 腰痛を忘れさせてる秋の月

① 愛弟子の爪びく津軽秋夜長

① 愛染の深き身に入む老ひとり

① ぬのころぐさ愛想笑いで猫ゆかす

① 生きてこそ今が仕合せ檀の実

① 夜の長き自問自答や冬隣

① 愛燦燦歌姫偲ぶや秋の夜

① 颱風過何かふつ切れ友と会い

① 星流る電流走る体内を

① 秋茄子や愛妻自慢の鳴焼で

① はなみようが愛は今こそ忍ぶこと

① 狗尾草のお喋りやまぬ風の朝

① 愛加那の一途な愛とデイゴの花

① 夕されば垂穂も稲架に居並びて

清明

青嵐

香魚

秋雲

春草

遥風

蕉哉

一華

春草

東洋

清明

昼行灯

昼行灯

而今

而今

香魚

香魚

史烙

誠

冬水

一華

要

春草

樹音

東洋

遥風

【次回開催】

★日時・十一月七日(水)

★場所・稲毛記念館

★提出句・兼題はありません。